

みこむだこ

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会
〒140-0001 品川区北品川2-2-10 TEL 03-3472-4772 FAX 03-3472-4770
URL <http://www.japan-city.com/sina/> E-mail: syukuba@cts.ne.jp

品川・ジュネーブ「友好の花時計」お披露目フェスティバル

平成15年4月19日

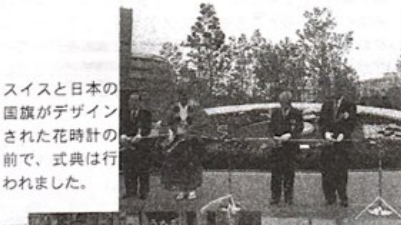
品川シーサイドフォレスト



折りたたみスイスですらフツ飛ぶ風の中、ジュネーブフォレストの花時計の前で式典は行われました。まず式典に先立って品川寺の仲田順英後住より、パリの万博に出展されて行方不明になった品川寺の梵鐘が、大正時代にジュネーブ市のアリアナ博物館にあることがわかり、ジュネーブ市そして関係者の努力により昭和5年に里帰りをはたした事。そのお礼として15年ほど前、品川寺から鐘のレプリカを贈呈、それが縁で品川とジュネーブ市との友好関係が始まり、その10周年を記念してジュネーブ平和通りの名前のついた通りに、ジュネーブより贈られた針をつけた花時計が設置されることになった。と今までのいきさつの説明がありました。

式典のはじめに協議会会長の堀江より「友好の証として花時計が刻一刻と時を刻むことでしょう。」ジュネーブ側からはスイス大使 ジャン・ジャック・ルヴェルダン氏より「長い歴史を持つ2つの町のお付き合いは始まったばかりですが、きっと長いお付き合いになるとおもいます。」と挨拶がありました。

品川区区長・高橋久二氏、ジュネーブ品川友好協議会会長 アラン・ドックローザー氏、品川寺住職



スイスと日本の国旗がデザインされた花時計の前で、式典は行われました。



品川女子学院吹奏楽部による華やかな演奏が商店街に鳴り響きました。

仲田順和氏にスピーチをいただいたあと、品川女子学院吹奏楽部のファンファーレ、そしてテープカットがおこなわれました。

その後品川シーサイドフォレストからジュネーブ平和通りを通して品川寺までパレードをおこないました。品川寺の法螺貝を先導として、東海中学校の生徒有志にジュネーブ市と品川区の旗を持ってもらい、区長をはじめ、大使、ジュネーブ市からの来賓、議員、近隣の町会長、学校長、交通安全協会、防犯協会、友好協会の代表、その後ろに品川女子学院の吹奏楽部という形です。短い距離でしたが素晴らしい演奏でした。

品川寺の中でも演奏が行われ、特に「品川宿半鐘」を着た女子学院の生徒数人が前で踊った吹奏楽での「八木節」は大好評でした。

夜にはホテルラフォーレ東京（御殿山）にて歓迎会を行いました。堀江会長のあいさつのもと、公使 ベーター・ラインハルト氏が乾杯。壇上では「オールドフューチャー」を合言葉に品川で活動を始めているM&Mプロダクションのアーティストの歌が披露されたり、「カッポレ」を大橋氏が踊ったりと盛り沢山で楽しいひと時でした。

(事務局次長 木村眞基)



ホテルラフォーレ東京にて行われた歓迎会では、ジュネーブの方々もリラックスした様子で、会話を楽しんでおられました。



らあつという間に黒山の人だかりが出来てしまい、警察より中止の命令が出たとか、巨大なゴジラ型のバルーンを崩らした所、周囲の高速道路が瞬く間に見物渋滞を引き起こして、やはり即刻中止に追い込まれた等々、ゴジラ関連のイベントの伝説は枚挙にいとま無いのである。またメンテナンスや、故障のある東宝側の考えもあって頓挫している模様。

でも見て下さい。発案者は徒手空拳の品川健会なる者(横丁の看板や虚空蔵尊の大祭などでお馴染みですね)ですが、品川区やしながわ観光協会・周辺ホテルや企業・地元町会や商店会、そして勿論その旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会を巻き込み、一致協力して夢の実現に向け、最後まであきらめずに粘り強く交渉をして行きますから。

以上、品川健会の一メンバーでもある、篠原がお伝えしました。

(新宿お休み処副館長 篠原良男)

これからのしながわ観光

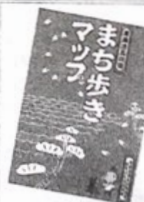
これからのしながわの観光について記事を書いて！と依頼され、この記事を書いているが、振り返ってみると、まちづくり協議会発足当時は、品川宿周辺の観光なんてほとんど思い当たらなかったように思う。当時、若手の一員だった私も、「品川の良いところは？」と質問され、「おせっかいなほど人懐っこくて人情が厚く、来街者を暖かくもてなす気質、いわゆる宿場気質を持った人間が、昔から暮らしている所」と言う来街者には見えにくい、抽象的な答えを言っていた。そして、協議会会員連で何度も何度も話し合い、まちの事業計画書が完成。それに沿って、品川宿周辺を訪ねて下さる方々を、暖かく迎え入れる気持ちを表すために、空き店舗対策を利用して「新宿お休み処」が開館した。また、品川宿周辺の景色は、まちの住人にとって余りにも当たり前の景色として溶け込んでいたため、来街者に見せる観光のネタになるものとして思い浮かばなかった。そんな中、何度も品川宿を訪れた人達を案内しているうちに、「今でも路地の真真中に井戸が残っている！」、「あの劇建築はすごい！」、「このレンガの塀は貴重ですよ！」とか言われ、初めて、自分達がすごいまちに生まれ育ったのだと気付かせていただいた。確かに宿場気質を持った人間が、まだまだ暮らしているまちというのは、品川宿の観光にとって今でも大きな部分を占めると思うし、歴史の街品川宿は寺社や路地、舟着りと、所々来街者に見ていただける面影をどどめている。

そして一転、周りに目をやると品川駅東口の再開発、秋には品川新駅に新幹線が発着、そして品川シーサイドの開発、大崎再開発等々品川宿周辺を取り巻く環境は、本当に大きく変化してきている。多分出来上がった当初はどこも注目を浴びると思う。しかし、新しく出来上るまちの顔が、皆同じに見えてしまふのは自分だけであろうか？ その後また進う地域に新しい施設ができると、お客は流れていってしまう。今までの新しい開発を見ていると、そんな繰り返しをしているようにしか思えない。今お台場

地域でレトロ商店街や、昔風の温泉施設ができて話題になっているが、企業がそんなに莫大な予算をかけて無理やり昔の箱物を作らなくても(そんな作り物でも昔を求める人が多いということだと思ふ)、それに近い物がこのまちには今でも残っているし、新幹線の駅から歩いて数分程度の所に、水辺があり、屋形舟に乗って、伝統芸能を見ながら風流を楽しむ地域は日本全国を探しても他に無い。こんな素晴らしい地域特性を生かさなない手は無いと考えている。自分自身の考えを述べれば、なにも、昔の情緒だけにこだわる必要は無いとも思う。ハッ山橋が昭和29年のゴジラの映画で、初めて本上陸した地点として、マニアには広く知られているが、そこに初上陸の聖地の証として、ゴジラの像が建っただけでも良いと思うし、水辺には、屋形舟だけでなく、もっと水に親しめるよう、カッターボートやシーカヤック等が乗れるようにしても良い。また、アジアチックな水上マーケットやバーボート(砂利舟)を改造したバー、音楽を聴ける船・演劇や伝統芸能を見られる船を並べるのも楽しいではないかと考えている。そして何よりも、そんなしながわに興味を持ってくれた若者が安い賃貸料で出店でき、一坪マーケットのようなものもできたら面白い、と言うように自分の中で夢と言うか妄想がどンドン広がっていく。

このように吉き良き物は大事に残しつつ、昔と新しい感覚が渾然一体となった、ある意味なんでもありのような形、しながわと言うまちのオリジナルな顔をつくること、このまちの新しい都市型観光なのではなからうか、品川と言うまちは、江戸の宿場町よりはるか以前の品川浜と呼ばれていた頃から、時代の流れとともに少しずつ形を変えながらずっと生き残って来たまちだと思う。そしてそこに住み続けている品川気質を持った品川っ子を中心に、新しく品川に住んだ人達を巻き込みながら、一緒に未来型の新しい都市型観光に十分対応していける度量と、ポテンシャルを秘めたまちだと確信している。何年後には、しながわが大きく化ける可能性を大いに秘めていると思う。汐留やお台場のように、企業が莫大な費用を投資して黙っていても人が集まるまちをつくってもらうのではなく、品川宿周辺の住人連自身が考え、汗を流してまちをつくる事こそが孫子の代まで「俺達は品川に生まれ、住んでいるよ！」と胸を張って言えるまちを残してあげろ、ということだと思っている。自分は旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会に、初期の頃から属して活動してきたが、これからも体が動くうちは協議会とともに走り続けたい、と思っている。

(まちづくり協議会 大越卓光)



新しい「まちあるきマップ」
できました！
(2003.4.1改訂)

以前のもので表紙の色が変わりましたが、表紙の中でもうひとつ変わったところがあります。さて、何が変わったのでしょうか・・・
ヒント：あるモノの数が増えています。